

## 木曽路氷雪の灯祭り事業

### 取り組みに至る背景・事業の目的

木曽は豊かな自然と歴史に生まれ、今日まで様々な文化を継承してきたが、平成の大合併により木曽の一体感が薄れつつあるという危機感から、統一的イベントを木曽全体で開催することにより、一体感や連帯感を醸成し、木曽のイメージアップを図ることを目的に本事業に取り組むこととなった。

### 事業内容

- 1月29日から2月13日までの期間中、木曽路11宿、御岳山麓3か所、木曽平沢地区の計15か所で、住民参加により制作したアイスクャンドルや雪像等によるイベントを連続して開催した。
- また、総合点灯式を2月5日に福島宿メイン会場で開催し、内外に木曽路全体のイベントとしてPRするとともに、実行委員同士の交流を深めた。



【三岳会場での様子】

### 事業効果

- 木曽路15地区での氷雪イベントの開催
  - ・各地区の住民が楽しみながら参加することで継続性を持った事業へとつなげることができた。
  - ・木曽路全体のイベントとしてPRすることで、インパクトのあるイベントとして紹介することができた。
  - ・地区により多少のばらつきはあるものの、総じて多くの観光客に来訪してもらえた。
- 総合点灯式の開催
  - ・木曽路は一つであるとの思いを参加者が抱き、また報道されたことで、地域住民もその思いを共有することができた。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取り組みなど

- 氷は木曽町福島で冷凍庫3台でバケツに水を入れて製作した。周りだけ凍らせて、水を抜いてから再度凍らせるという作業には人手も経験も必要であり、失敗を重ねながら今日に至っている。
- 最近の暖冬の影響で、開田高原でさえアイスクャンドル用の氷が凍らなかつたり、また、雪像の材料である雪の確保に苦慮している。特に馬籠宿、妻籠宿などは従来でも氷が作れず、木曽町福島での冷凍庫を使用した氷作成に頼らざるを得ないため、片道1時間に及ぶ距離を製作のために3~4回は往復しなければいけない等の苦勞がある。
- 各地区での取組はそれぞれの地区組織で行っているため、地区によって実施主体も異なれば、行う内容も異なる。豚汁を用意したり雪像を制作したりといった地区ごとの特色は、地区の代表者の苦勞の賜物である。

#### 【選定のポイント】

木曽路11宿を中心に郡内15か所で住民協働により制作したアイスクャンドルのイベントを連続的に開催し、冬の夜の情緒を醸す取り組みは、木曽路全体のイメージアップや住民の一体感の醸成に寄与した。

団体名 木曽路氷雪の灯祭り実行委員会（木曽町）	事業タイプ ソフト事業
連絡先 木曽観光連盟 田澤 電話 0264-23-1122	事業費 1,611,279円
ホームページ <a href="http://www.kisoji.com/">http://www.kisoji.com/</a>	支援金額 1,557,000円
メールアドレス Kanren@kisoji.com	